

ならやまトーク・投句 新緑編

《ならやま薫風》

図録見てルリタテハだねと声を掛け 鈴木末一

(昨年七月から図録の編集に没頭し、すっかり昆虫オタクに。この間も見つけた蝶に「オイ、キミは〇〇だね」と。いや、これは昔の癖でした)

里山の空にのびのび鯉幟 八木順一

(自宅にはちよつと大きすぎる鯉幟も、ならやまでは所を得て堂々と天空を泳ぐ。もうすぐ田植え実習です。児童たちが喜ぶでしょう)

畑打つやへりコプターの音高し 西谷範子

(鋏で土を起こし畑を作る。のどかな昔ながらの里山の風景。いい汗、いい気分。突然、頭上からへりコプターの轟音が降ってきた)

タケノコとワラビの煮物暦繰る 岡田安弘

(活動日ごとに折々の山菜料理が振舞われる。まさに料理の歳時記。あれこれ思い出して、行く春を惜しんだことです)

ジャンケンポン初筍の争奪戦 藤原勲

(初物のタケノコは大人気。分けるのは、お決まりのじゃんけん。掛け声にも思わず力がこもる。最初はグー・・・)

タラの芽のどれを残すか手の迷い 古川祐司

(タラの新芽は山菜の王様、今年も荒地のそここでタラの芽が開く。大きな株には、太郎芽、次郎芽、三郎芽・・・どれを残すかな)

《令和改元》

令和へとアンダーハンドパス風光る 鈴木末一

(平成から令和へと時代が移る。順風のならやまにも時移り、世代交代の正念場を迎える。誰に、どのように引き継ぐか。オリンピックのリレーで見たような絶妙のパスワークに期待)

新元号エイプリルフル置き去りに 内河洋文

(多くの人が固唾をのんで見守った新元号の公示。こんな時にエイプリルフル連想した人もいるのですね。 感服！)

寝て起きて何も変わらぬ令和かな 岡田安弘

(ウーム ごもつとも。一体、改元で何なんでしょうね)

令和とて豊祝の酒風かほる 古川祐司

(5月4日天平祭のイベント。某酒造会社から早くも「令和」の酒を出展。天平以前から元号の続くお国柄、ビューティフルハーモニーに乾杯)

《新緑吟歩》

三室戸の塔へとうねる躑躅かな 阿部和生

(花の寺といわれる三室戸寺、塔へと続くツツジの波打つ谷筋は見事というほかない。感動の一句)

ブナの森木々の芽吹くや力秘め 中井弘

(大台ヶ原の三津河落山を訪れた時、ブナの森は芽吹き寸前でした。森全体に秘めた生命のエネルギーを感じました)

投句歓迎(古川まで)